

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	労働者協同組合センター事業団ワーカーズコープセンター事業団 心りっぷる登米事業所放課後等ディサービス		
○保護者評価実施期間	令和 7年 1月 30 日 ~ 令和 7年 2月 19日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 10人	(回答者数) 10人	
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 25日 ~ 令和 7年 2月 28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 4名	(回答者数) 4名	
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 7日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	他事業所との療育検討会議を随時開く。	事業所間の情報や支援の取り組みの話し合いで、児童の特性や特徴をつかみ療育を行っている。	当事業所は小規模の為、職員が少ない。そのこともあり他事業所との支援やその他の交流を深め職員の知識や技術を深めていく取り組みを行って行きたい。
2	1対1の個別指導で、個々に合わせた内容の支援を繰り返す。 遊びの中で人との繋がりで楽しい事を体験する。また、ルールがあることの気付きを育していく。	家庭と学校の活動を土台に、中間的立場の取り組みを意識してサービス提供している。 素の姿でのびのびと生活や活動が出来ること、そこから良いことや悪いことの分別ができる人になることを支援している。	どこに行っても、親しみを感じてもらえる人になる様、様々な体験と豊かな環境で支援していく。
3	本人そのものの性格を自然に出せる環境にある。	田舎に事業所があることを生かし、散策で植物、季節の移り変わり等自然の中で遊ぶ工夫をしている	植物を使った遊びや土を使った泥んこ遊びなどを展開していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との係りが少ない。	地域との係りが少ない。年何回かの行事のみになっています。今後の取り組みの課題。	地域に向けた発信、例えば手軽に来れる放ディと地域食堂などの手段で理解者を募る。その様子を通信で伝え、身近な事業所として認識してもらいたい。
2	中心部から離れている。子供たちの送迎に時間がかかる。	事業所から遠い送迎は、保護者に頼まれ、保護者の困っている事情に合わせている。送迎専門の方の採用が必要。	送迎の専門職員と放ディの資格ある人材の獲得が必要。
3	人材不足。	資格のある人を募集。	職員が資格取得を目指す。